

## 新刊紹介



## 土木技術者の倫理を考える

—3.11と土木の原点への回帰—

編集：公益社団法人 土木学会  
倫理・社会規範委員会  
倫理規定教材作成部会  
(部会長：東京都市大学 皆川 勝)  
仕様：2016年3月発行、A5判、  
171ページ、並製本  
定価：1,296円（本体1,200円＋税）

平成26年5月に改定された公益社団法人土木学会の「土木技術者の倫理規定」は、前文や基本理念などの記載を一切廃し、「倫理綱領」と「行動規範(9条)」からなるシンプルな構成となっています。

本書は、この抽象化が進んだ倫理規定について説明し、改定した意義などを解説しています。その上で、土木技術者の皆さんが「技術者倫理」を学ぶための教材として利用できるように、なぜ土木技術者にとって倫理が必要なのかなどを詳細に解説し、具体的事例を取り上げて考察しています。

第1編では技術者倫理の必要性を説明しています。日本における技術者倫理の歴史を示し、東日本大震災を経て、改めて技術者倫理とは何かを考察しています。また、なぜ技術者倫理が求められるのか、自立した技術者となるためにはどうしたらよいかについて解説しています。

第2編は土木技術者の倫理規定と題し、「土木」とはいったい何なのかを説明し、土木技術者とはどのような人物なのかを解説しています。その上で、「倫理綱領」と「行動規範」から構成される今回の倫理規定の解説を行っています。

第3編では土木学会の倫理・社会規範に関する活動を紹介しています。

第4編は技術者倫理に関する研究と題し、具体的な事例を取り上げ、倫理規定に照らして問題点を明確化し、さらに問題の本質を深掘りし、考察を加えています。

倫理は罰を持って姿勢を正す法とは異なり、一人ひとりの内面に働きかけ自律的行動を促すものであることから、その浸透・徹底には時間を要し、教育的観点からの取り組みが不可欠です。本書を常に手元に置いていただき、日常のさまざまな場面で土木技術者の倫理の醸成の一助として役立てていただければと思います。